

お彼岸

平成29年9月第3週放送

今年もまもなく九月のお彼岸の時期を迎えます。秋のこの時期を迎えますと、夏までにはその気配もなかったところに、彼岸花が忽然と姿を現し、鮮やかな赤い花を咲かせます。その年によって、猛暑の夏であったり冷夏であったりと変化があるものですが、彼岸花は、あたかも毎年この時期を知っているかのように、変わらぬ景色をつくります。

私たちも、お彼岸の前には、「お墓参りをして、お掃除をして…」と予定を立てるものの、慌ただしく毎日を過ごしていると、気が付くと「もうお彼岸」となり、何から手を付けようか大慌てということも、よくあることです。

ひょっとすると、私たちのご先祖さまも同じように、彼岸花の咲く姿を見つけて、慌ただしく準備をして、お彼岸を迎えていたのかもしれませんが。そんな風に思うと、お彼岸に咲く彼岸花は、今も昔も、とても助けになる知らせであったことでしょう。

お彼岸は、年に二回、^{こよみ} 曆に合わせて訪れる仏教行事です。

夏に迎えるお盆とは異なり、ご先祖さまが私たちのもとに帰ってくるということではなく、お墓参りやお仏壇の掃除などを行い、私たちの方から、あらためてご先祖さまを^{しの} 偲ぶ期間として過ごします。お盆で私たちが待ち遠しく亡き方をお墓に迎えに行ったように、お彼岸はご先祖さまが私たちの訪問を楽しみにしているのかもしれない。

お墓参りに行くと、日々の忙しさから少し離れて墓前にて心静かに手を合わせ、ご先祖さまへの挨拶とともに、この^{かん} 間の出来事などを報告されることでしょう。

^{こんにち} 今日までの自らを振り返り、亡き方々を^{きょう} 偲び、今日のこの日を迎えられることを感謝して、また次の墓前に立つ日のことを想い、その時に再び報告することを誓いたいものです。

^{いちにち} 一日一日を大切に過ごしてゆく節目として、お彼岸を迎えてお墓参りをし、ご先祖さまを偲ぶことは、今も昔も変わらぬ意義あることなのです。

今年のお彼岸を迎えるにあたり、皆さんは、大切なご先祖さまに、どんな報告をされるでしょうか？

— 終 —